サポちゃん通信

No.13

目次

・ヒロシ、博物館やめるってよ　2
・ハシビロコウに会いに行ってきました　4
・夜間採集について　6
・運び屋さん　7
・アミダテントウ　8
・2年目の新参者が語る…PartⅡ　9
・博物館浴をしよう！　10
・バックヤード　ほね　12
・バードウオッチング　14
・コラム　野生哺乳動物の暮らしを観る　15
・表紙描いて四方山話　16
表紙・イラスト　原まゆみ

ヒロシ、博物館やめるってよ

田中先生ありがとうございます

博物館サポーターが始まったのは、平成の御代の事で、あれから９年。

ずっとご指導いただいていた田中浩先生が令和５年度をもって博物館を卒業されることとなりました(；一_一)　サポちゃんにとっては一大事。

田中先生は、言いたいことやりたいことわがままいっぱいのサポちゃんメンバーを自由にやらせてくださいました。この間に企画展とテーマ展を２回ずつ実施し、サポちゃんに文化祭前のようなカオスと高揚感と達成感を味あわせていただきました。

先生は、ランチタイムにはさりげなくコーヒーを淹れて下さり、お花見や葉ワサビとり、ゼフィルス観察会、忘年会などみんなで楽しめるイベントも先生のキャラクターで行うことができました。

もちろんのことながら動物の知識にはまだまだ教えていただきたい事ばかりです。それに加えてはにかんだ笑顔と「すごいですね♡」というキラーワードに私たちさぽちゃんはワクワクをいただいきました。

本当にありがとうございました。でも、まだ逃がしませんからね！

これからも違った形でおつきあいよろしくお願いします(^_-)-☆

（間田　敬子）

これまでのサポちゃんの歩み

2015 4 月　山口県立山口博物館サポーター制度開始
動物サポーターによる鴻ノ峰・糸米川砂防園での昆虫観察始まる

2016　夏　企画展「昆虫のふしぎな世界展」開催

2017　夏　企画展用工作グッズ６種類各１０００個作成

8 月　「サポちゃん通信」第１号発刊

秋　寄贈された「藤原貝類ｺﾚｸｼｮﾝ」の整理分類登録に着手

2018　春　蝶を呼ぶ０円花壇作り始まる

夏　企画展用工作グッズ(ﾊﾟﾗｼｭｰﾄ ﾎﾟｯﾌﾟﾛｹｯﾄ等)作成

12 月　藤原貝類コレクションの整理完了
テーマ展「寄贈された動物資料」にて展示

2019　春　国立科学博物館に提出する標本データベースづくり始まる

夏　企画展用工作グッズ(トコトコなっとくん等)作

2020 8 月 1 日　村上氏、青い蝶を探して遭難しかける

12 月　０円花壇のカワラケツメイで「サポ茶」作り 始まる

2021 12 月　テーマ展「サポーターの７年展」開催

2022　夏　企画展「大動物展」ジオラマ作りに挑戦

冬　寄贈された昆虫「田中馨コレクション」データ登録始まる

2023　秋　国立科学博物館 S-net(サイエンスミュージアムネット)
での山口博物館公開標本データ数は 43,290 件になる

2024　2 月　サポーターによる鴻ノ峰生物調査で採集された昆虫類は
1000 種、11000 個体を超える

ハシビロコウに会いに行ってきました

ハシビロコウって鳥を知っていますか？アフリカ中部の湿地帯に住む体高が１ｍ以上、翼を広げると 2.5m 超で大きすぎる顔とクチバシ、長い脚を持ち大きな鳥で「動かない鳥」として知られています。現在、日本国内で公開しているハシビロコウは 8 施設 14 羽でそれぞれ個性があってそのすべての個体に名前がついています。なかには単独写真集も発売されている掛川花鳥園の「ふたば」のようなアイドルもいます。

さて、今回訪れたのは神戸どうぶつ王国。神戸ポートアイランドにあり花と動物と人とのふれあいをテーマにした全天候型対応施設でオスのボンゴとメスのマリンバの 2 羽が暮らしています。入場してすぐに「ハシビロコウ生態園　Big bill」に行きました。そこはガジュマルやマングローブ、パピルスなどを植栽して人工降雨設備を施してハシビロコウの生息地であるアフリカの湿地を再現した広いエリアです。さっそく入って見渡しましたが、ハシビロコウの姿はありません。しかし、何かの視線を感じて振り返ると入口の上に！あとから調べるとそれはメスのマリンバで、いつもその高い場所からエリアを見下ろしているとのことでした。15 分くらいまったく動かないマリンバを見ていると突然、体をかがめてジャンプ、その場で飛び上がり大きな羽を広げてゆっくりエリアを一周して元の場所に戻りました。動かない鳥が動き、そして飛んだ！が、驚きのあまりみとれるばかり。その後、20 分くらいしてまた飛んだので今度はしっかりビデオモードで撮ることができました。一方のボンゴは池を挟んだ茂みの中にまったく動かず佇んでいました。

ハシビロコウマニアのあるある話で「我慢強くなった」というのがありますが、せっかち気味の人が動かないハシビロコウが動いてくれるまで待てるという我慢強さを与えてくれるのです。またもう一つのあるある話「グッズが増える」ですが、ショップでぬいぐるみ、フィギュア、マグカップ、カレンダー等々を買い込んでしまいました。

ハシビロコウの他にマヌルネコ、スナネコやコビトカバ等の希少な動

物やアカカンガルーやカピバラ、ゾウガメ等と触れ合える神戸どうぶつ王国へ是非行ってみてください。（村上　敬司）

メスのマリンバ

ハシビロコウのフィギア

夜間採集について

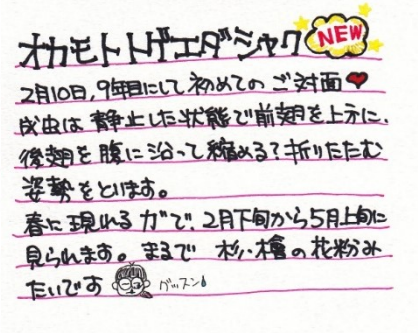
博物館サポーターによる定点採集は日中が主であるが、時間帯をずらし夜間に採集を行うと、昼間では出会えない種類の蛾に出会える。

2 月の夜間採集は、糖蜜と焼酎をしみこませたコットンを仕掛けて、キリガの仲間が採れるし、フユシャクの仲間が飛んでいるところもある。4 月からはやはりライトトラップ（LT）が最も多くの種類に出会える。

2017 年 8 月～2021 年 10 月に定点観測地点で LT を行い、292 種類の蛾を採集している。同じ期間で昼間の採集も含めると 455 種の蛾が取れているので 64%は LT で出会えることになる。

最近は、街灯や自販機も LED 化が進み、夜間もあまり昆虫が集まる場所がなくなってきている。ひょっとしたら、昆虫自体の数が減少しているのではないか。

こうした状況でも、LT では効率よく多種類の蛾との出会いが期待できるので、今年もできる限り行いたいと思っている。最近は、虫の集まる 365nm 近くの波長をだす LED も発売されているようなので、新しい器具も試してみたい。考えていたらワクワクしてきた。
今年も新しい種類に出会えることを期待している。（吉本　進）



運び屋さん

「バス停近くにアナグマがいます。」とか「神社の反対側にイタチかな？テンかな？がいます。」とか「坂の手前にヌートリアがいます。」など、サポーターの原さんから連絡が来る時があります。出勤途中の原さんは、気にはなるでしょうがどうすることもできません。

田中先生から託されたゴム手袋と特大のビニール袋は、常時、車に積んでいます。現場に着くとゴム手袋をはめ、車に気をつけながらすみやかに路上の亡骸をビニール袋に入れます。安全な場所へ移動後、心の中で手を合わせて中の空気をできるだけ抜いて袋の口を結びます。袋の上からまた袋を二重、三重とかぶせます。その後、田中先生に連絡をします。博物館におられるときには博物館へ直行しますが、おられないときや連絡がつかないときには家に持ち帰り、涼しい所に置いておきます。暑い日には、使わない衣装ケースに氷や保冷剤と一緒に亡骸を入れておいたことがあります。林道で見つけたときには土の中に埋めておき、先生からの連絡後、掘り出しに戻ったことがあります。

去年の暑いある日、パークロードに若くてきれいな羽のカラスが亡くなっていました。巣立ちびなでしょう。うまく飛べなくて車をよけられなかったのかもしれません。頭上では、親鳥と思われるカラスの鳴き声がします。亡骸を回収するときも、車まで走っていくときも鳴き声が追いかけてきます。襲われるのではないかとドキドキしました。車で博物館へ移動中も鳴き声が聞こえました。心が痛むと同時に、親鳥の愛情の深さを感じました。

博物館に運ばれた亡骸たちは、田中先生やカツオブシムシや山田さんたちホネっこチームの方たちのお世話になります。私の亡骸運びは、田中先生のお手伝いをしたいという気持ちはもちろんですが、かつて黒ネコをはねてしまい、亡骸を埋めた出来事への懺悔の気持ちがあるからかもしれません。（上田　貴子）

アミダテントウ

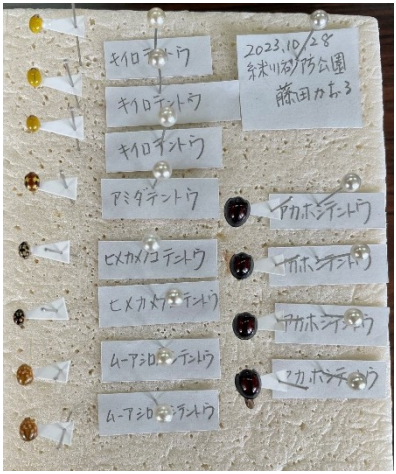
採集したアミダテントウ

アミダテントウはくすんだ赤の地色に黄と黒の模様を持つカラフルな虫です。鴻の峰昆虫採集で出会いたい虫の１つですが、私はなかなか見つけられずにいました。

そこで何度も捕まえたことのある山田さんが、以前採集した場所で一緒に探してくれることになりました。暫くすると、不発の私の横で「採れたよ～」との声。「さすが虫捕り名人！！」と思いつつ、まずは彼女の採集方法を観察することにしました。柄を長くした捕虫網で、地上４メートルあたりの広葉樹の葉を下からすくうようにして叩いています。「えー、そんな高い場所を叩くの？」と目からウロコ。テントウムシといえば、草地や植え込み・低木にいるという訳のわからない思い込みで、私は低いところばかり探していました。アミダテントウは草上性ではなく樹上性だったのですね。その後、お陰様でようやく１匹ゲット出来ました。

実際に間近で見ると体長５㎜ほどで黒い大きな目と赤・黄・黒の色合いが、とてもかわいいです。肉食でアオバハゴロモの幼虫を食べるそうです。

学名は *Amida tricolor* といい印象的な三色が名前にも付いています。「Amida」は「あみだくじ」が由来かと思いきや、「阿弥陀如来」からきているとのこと。はてさて、どこが阿弥陀如来を連想させるのか？上から見ても下から見ても横から見てもさっぱり分からず…。名付けた人にきいてみたいものです。（藤田　かおる）

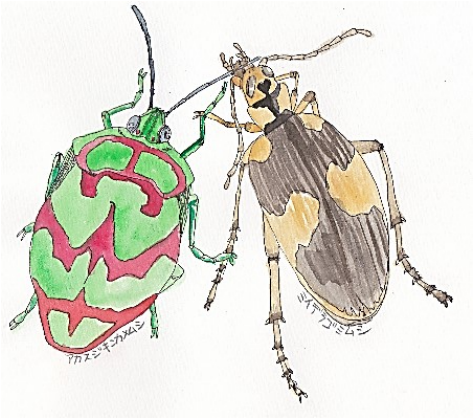


10 月採集したテントウムシの仲間

2年目の新参者が語る…PartⅡ

BS12で「鶴瓶ちゃんとサワコちゃん～昭和の大先輩とおかしな２人」という番組があります。言わずとしれた笑福亭鶴瓶さんと阿川佐和子さんのことですが、二人がゲストを迎えて、楽しく懐かしい話を聞いていくという内容です。そのゲストとして養老孟司さんが出演した回（2023年11月）のことです。今後の日本についての話題で、戦争を経験された養老さんは、日本は戦争状態ではないが、どこでも地震や災害があるから悲惨な状態になる可能性は日本中どこでもあると明言します。関東大震災の時も、東京は火災が広がって犠牲者が多くなったけれど鎌倉や横浜の方が揺れや被害がひどかったと母親から聞いたそうです。また、「一人称の死は分からない、三人称の死は関係ない、二人称の死だけが本当の死だ。」という養老さんの考えに、昨年の身近な人たちの死を重ねながら納得しました。

そして、養老さんの昆虫の標本作りの話になります。死から「生きること」について話が変わると、養老さんは、「昆虫の標本作りはしたい」と。その時、映し出された写真は、最近している標本の記録作りで見ている状況と重なります。「分類をし直す作業がおもしろい。調べればきりがない。昆虫採集は少人数で。大勢で行くととり合いでけんかになるから」などにこやかに喜々と昆虫について話されました。



私の最近は、「ゴミムシ」から「カメムシ」です。養老先生は、昆虫の減少を危惧されていますが、私はたくさんの種類の昆虫名を図鑑で調べながら、今日も、今まで田中馨さんらが採集された昆虫の多さに驚いています。

（平川　清美）

博物館浴をしよう！

博物館浴というものがあるらしい。先月、運転中にラジオから「博物館浴」という言葉が流れてきて、はじめてその存在を知った。ラジオでは、九州産業大学の緒方教授の研究が紹介されていた。博物館浴！なんて素敵な言葉だろう。森林浴も、森林を浴びるというその言葉が斬新だと感じたが、博物館浴にはそれ以上の衝撃を受けた。博物館に行き、展示を鑑賞することを浴と表現するそのセンスに、運転中にもかかわらず思わず小さく拍手をした。

緒方教授の博物館浴の研究を調べてみると、若者対象の実験で、博物館の展示鑑賞後は「怒り」「抑うつ」「緊張」などのネガティブな状況を示す数値が下がり、ポジティブな「活気」の数値は上昇したとあった。また、最高血圧が下がり、最低血圧が上がって正常値に近づいたという報告もあった。博物館浴は、欧米で先行して研究が進んでいて、カナダでは、博物館への訪問を処方箋に書く取り組みもしているらしい。美術館、水族館、動物園、植物園も、博物館に含まれるという。

さて、私は週１回、動物部門サポーターとして、山口博物館で活動している。活動日の前日は楽しみでそわそわする。博物館の駐車場で車を降りて、本館の重厚な建物を見るだけでほっとする。活動場所の別館も古い建物で、入るとひんやりするが、昔の学校のような木の窓枠やコップを落としたら割れてしまいそうなレトロな流し台を見るとなぜか落ち着く。その建物の一室で、教えてもらいながら、昆虫標本の整理をしたり、動物の骨の掃除をしたりする。時々サポーター仲間と本館の展示を見に行く。その静かな（時々賑やかな）時間が心身を癒やしてくれていると感じる。そうか、これは、博物館浴というものだったのか。毎週毎週博物館浴をしているのだから、活気が出てポジティブになるはずだ。

平日に山口博物館に来る人は少なめだ。何度も訪れる人は少ないのかもしれない。1、2 階の常設展示はあまり変化はないが、3 階の特別展示室では、1 年に数回テーマを変えた展示をしている。別館では、年間を

通して様々なジャンルの講座が開かれている。たくさんの人に「博物館浴」でストレスを解消してほしいと願っている。博物館に足を運んで、健康になろう！（村中　明子）

剥製標本の並ぶ収蔵庫

特別展のため収蔵庫から出した剥製標本を展示する

博物館別館の木製の窓枠とレトロな流し台　ここでサポーター活動を行う

バックヤード　ほね

　サポーター初の実習は骨の肉取りでした。長時間煮て取れやすくしたものをピンセットや歯ブラシを使ってきれいに取り除き骨だけにするのです。哺乳類の体には約 200 個の骨があるそうで、米粒みたいに小さいのも見逃さないように指先で脂ぎったバットの底を探すのは難しかったです。しかし、臭いや作業に抵抗はなく嫌いじゃないなと思ったので、月に一回、山大の学生さん達の活動「ホネっこ」にも参加させてもらいました。

　そこでは、イノシシやクマなど大きな動物の肉取りもしましたが、部位ごとに分けて乾燥させた一頭分の骨を袋詰め整理したり、アナグマやヌートリアの皮を剥いだり、ネズミや鳥類の仮剥製を作ったりして、それまでの生活では絶対にありえない貴重な体験ができました。皮は、国内では唯一ここだけという新潟県のなめし皮業者に送られ、フワフワに仕上がった毛皮には各個体の情報を記したタグを付け整理しました。

　肉取りは煮るだけではなく、夏場は虫（ハスジカツオブシムシ）に食べてもらう方法もあります。例えば、アカネズミだと容器の中にあらまし肉を取った骨と虫を 20 匹くらい入れて 1 週間後、開けてびっくり‼虫のフンと抜け殻がおがくずみたいになった中で、きれいに骨だけになっているのです。このようにして取り出した全身の骨を並べて固定した骨格標本も作りました。大きな個体は上下二つの標本箱を使い、頭からしっぽの先まで資料を見ながら位置を確認してバランス良く並べて骨の名札も付けるのです。

　ネズミやモグラなどの小動物は骨も小さく細いので順番に並べるのが大変でしたが、先生のいつもの「すごいですねェ―」の一言で私には大きな花丸❣

　観る人にわかりやすい展示をめざし、みんなで試行錯誤する時間はとても楽しいし、珍しいものを見たり触ったりして、それらにまつわる話を聞きながら作業する標本整理は面白いし大好きです。その一員に加え

てもらっている事に感謝しております。先生、御指導ありがとうございました。（山田　恵美子）

研修会で仮剥製づくりを指導

作製したネズミ類、モグラ類の仮剥製

アライグマの子どもの仮剥製を作製

ヌートリアの仮剥製を作製

骨格を部位別に並べる　　仮剥製と骨格標本のセット

バードウオッチング

2023 年 12 月 24 日野鳥の会山口県支部・探鳥会（矢原河川公園）に参加。「ツクシガモ」がいた。38 年振りに確認できたと興奮しきり。「コウライアイサ」もいるそうだが今回は見られず残念。

2024 年 1 月 31 日、去年から「タゲリ」を見たくて秋穂付近を探索したが見つけられなかった。

2024 年 2 月 2 日、「コウライアイサ」が居ると教えてもらった場所で、見つけた。距離が遠くて、ペアで一緒に潜ったり交互に潜ったりと、なかなか思うように撮影出来なかった（本間　喜美恵）。

ツクシガモ（カモ目カモ科）　冬鳥　有明海などの九州北部の干潟に定期的に飛来する以外は稀）

コウライアイサ（オス・メス共に脇に灰色の鱗模様・極めて稀な冬鳥）

コラム　野生哺乳動物の暮らしを観る

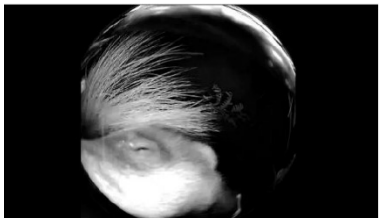
警戒心の強い哺乳動物を野外で直接観察することは難しいです。しかしながら、動物を観察するための様々な道具が開発され観ることができなかった世界が観えるようになってきました。一つは発信機です。動物に電波を発する装置を取り付けどこにいるのかを特定します。小型化が進み 1g の発信機を体重 25g のヤマネに装着し、スギの樹皮の裏で冬眠しているのが分かりました。ヤマネは夜行性の樹上生活者です。森の中での生活の解明に役立ちます。

赤外線カメラも夜の動物の活動を観る必要不可欠の道具になりました。現在では森の中に携帯式の Wifi 機器をモバイルバッテリーと共に設置し、野外で使える防水型の赤外線カメラを定点観察場所に設置しておきます。動物の動きを捉えてカメラ内の SD カードに記録し、同時にスマホのアプリでも観察できるようになりました。小型赤外線カメラをアナグマの巣穴に設置し、子育ての様子を撮影することにも成功しました。（田中　浩）

ヤマネに 1g の発信機をつける

発信機個体の冬眠場所特定

Wifi 赤外線カメラでアナグマを観る



小型カメラを巣内に設置赤ちゃんの姿

表紙描いて四方山話

「私たちはどう生きるか」

9年前の新聞広告，TVCMで集まった初代メンバーでしたが，多少の出入りはあったもののよく続いています。

私は「好き」だけで始めた活動でしたが，サポーターのみんなで 時には新しい事に手を染め，時にはプロをも唸らせる技量を発揮しながら 第二の人生や 2足目のワラジを楽しんでいます。

ちょっとした 転機を 迎えますが，目標は ひとつ!!

「山博に栄光あれ!!」 ですね～☆

ところで，今年は 辰年です。表紙は高松塚古墳の四神のうがモデルです。
龍は，頭はラクダ，角は鹿，目は兎，首胴は蛇，鱗はコイ，爪は鷹，掌は虎，耳は牛です。

山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 13

発行 2024 年 2 月 29 日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町 8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353

サポちゃん通信バックナンバーも閲覧可能

http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/supporter.html